

第6回 川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事要旨

1 開催日時 平成27年11月25日（水）午後5時～午後5時25分

2 開催場所 市役所4階 4A会議室、迎賓室

3 出席者

立原雅夫、木村啓子、吉野郁恵、近藤芳宏、今野英子、小野澤康弘、樋口直喜、牛窪多喜男、山木綾子、荻野貴、千葉三郎、本田倫江、斉藤重教、森田浩の各委員

4 会議の概要

1 開会

2 答申について

- ・事務局から前回審議会の意見などを踏まえ修正した答申書について説明を行った。
- ・本答申書を市長に提出することについて、審議会委員が了承し、立原会長が答申書に署名を行った。

3 その他

4 閉会

●答申

- ・迎賓室にて、立原会長から川合市長へ答申書が手交された。

・会長挨拶

審議会は、7月より6回にわたり審議してきた。審議会としては、総合戦略の将来都市像を「若者が住み続けたいまち」として掲げ、今後の川越市を担っていく若者が住み続けたいまちにするにはどうしたらいいかという観点から、議論を重ねてきた。

結論として、しごとに対する支援をはじめとした、地域に根ざした生活を送ることができるしくみづくり、また、子どもを産み育てることに希望が持てるような環境づくりを整えていただきたいという思いを込めて、この答申をまとめた。

また、川越には、従来から高水準で発展している商業や工業、強みである観光、そして農業がある。これらの産業間で新たな連携を進めることにより、川越市にさらなる活力を生み出していただければと思っている。

そして、この総合戦略に取り組むことにより、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」を活気づかせる好循環を生み出し、川越市が若者から高齢者までの幅広い世代が活躍で

きるまちとして発展することを期待する。

市長におかれては、総合戦略の推進にあたって、産官学金労言など幅広い分野と連携・協働を図り、一丸となって、確実に実施していただければと思う。

- ・市長挨拶

総合戦略審議会委員の皆様には、公私ともにお忙しいなか、本年7月24日の第1回の審議会から本日の答申に向けて、6回にわたり、迅速かつ慎重に御審議をいただき、誠にありがとうございました。

委員の皆様にも熱心に御審議いただいた結果、川越市の特徴を生かし、具体的な総合戦略になったものと考えている。

本市の人口は平成27年8月に35万人に達したが、推計によると、将来、減少に向かうことが予想されており、人口減少問題は本市においても優先的に取り組まなければならない課題である。現在の水準である人口35万人を、計画期間の満了となる平成31年度まで維持していきたいと考えている。

会長のお話にもあったが、今後のまちづくりを中心となって担っていくのは若者である。本市が、若者にとって、住み続けたい、住んでみたいまちになるよう、この総合戦略に掲げられた施策を積極的に取り組んでまいりたい。

また、平成28年度からは、今後10年間のまちづくりを進めるための新たな指針となる、第四次川越市総合計画がスタートする。総合戦略は、第四次川越市総合計画に基づき展開されるさまざまな施策とも連携を図っていきたいと考えている。

市長としては、審議会でも御審議いただいた、総合戦略に基づき、人口減少問題や地域経済の活性化に着実に取り組み、本市がさらなる発展を遂げるよう努めてまいりたい。

総合戦略に基づく、施策の実施についても一層の御助力を賜りたい。

- ・写真撮影
- ・終わりの挨拶